



☆ 国民と自衛隊とをつなぐ
架け橋
☆ 会員と関係者相互の親睦
と情報交換

隊友よこはま南

第54号

2026年3月25日

公益社団法人隊友会
横浜南支部
発刊責任者 田原昭彦

『宣誓』

横浜南支部長 田原昭彦

私は、防衛大学校を第二十二期生として卒業しました。

専攻は、人文社会科学国際関係論です。「ひょっとして、文系？」・・・その通りです。私は文系の防大第一期生になります。入校は昭和49年4月5日。人文社会科学科はその日からスタートしました。

防大卒業後は、多くの場面で「軍隊に文系は必要なのか？理系だろう！」この試練に向き合うことになりました。将官ですらそのような見方をしているのか、防大文系卒業であるのか、理系論？を目の前でお聞きしたこともあります。防大卒業後の文系第一期生は自衛隊で十分に務まったのか？どうでしょう。どのような評価をしていただけなのでしょう。ただ、総監をはじめとする各分野での指揮官も生まれましたし、中国、シンガポール、エジプトの防衛駐在官や戦闘機パイロットとしての任

務も立派にこなしました。

防大文系の育ての親は、政治学者の故猪木正道第3代学長です。そして、国際政治学者の西原正教授（後の第7代学長）をはじめとする人文社会科学の先生方です。その中の一人、国際政治学者の佐瀬昌盛教授に私は卒業論文の指導をいただきました。

佐瀬ゼミです。その先生が、令和8年2月24日に91歳で逝去されました。2月28日の告別式当日、先生の遺影を見ながら、防大1年時に先生からお伺いした、私には驚きで目から鱗が落ちるようなお話を思い出しました。

それは、「国の防衛は、自衛官だけがやるものではありません。事情があつて任官ができなくてもその役割は果たせます。」そんな主旨のお話でした。防大生の任官拒否に繋がるようなデリケートな話でもありますが、せっかく入校しても人によっては向き不向きがあります。ですから4年間の学業と学生生活を終えた後は、他の世界での活躍も日本にとっては意味のあること

と思います。事実、文系第一期生の中には、任官後ではありますが、再勉強して弁護士や大学の教授になった者や学習塾を経営している者もいます。退官後には政治家になつた者もいます。文系第二期生以降には、自衛隊のイラク派遣において第一次復興支援群長を務めるなどの例をはじめとして多くの活躍もありました。佐瀬先生に手を合わせながらそのようなことを報告致しました。そして、改めて読み返してみた私の卒業論文、できの悪かった私をご指導いただいたことへのお礼も致しました。

1月27日公示、2月8日投票の衆議院総選挙は、自民党の圧勝でした。民意が示された以上、丁寧かつ早期の公約実現が待たれます。そのため、国会では有益な議論をしてもらいたいと思つていますが、議会・委員会の質問では信じられないと言いか驚きの質問をされた議員もいました。子供たちを戦争に行かせない・巻き込ませないという

質問に対する「大切な子どもさんの命を守るために私は闘います」という昨年暮れの高市総理の答弁を再度取り上げ「誰と誰が戦うのか？最前線にいくのは総理率いる自民党なのか？戦争に巻き込まれたとき一体誰に血を流させる覚悟なのか？まさか若い自衛官や未来世代の子どもたちを最前線に送り込むうなんて考えているのか？」と。さらに、「総理、みんな、お母さんから生まれたんです。あなたもお母さんから生まれたんです。母親はね、子どもを戦争に行かせるために子どもを産んだんじゃないんだよ。」と少し乱暴に質問をしていました。この平和な日本に、戦争を好み、戦争に行かせるために子供を産む日本人がいるとは思えません。また、「最前線にまさか若い自衛官を送り込むなんて考えているのか」との発言にはさすがに違和感を覚えました。自衛官に対する地位の曖昧さと尊敬のなさがこのような発言に繋がっていると思わざるを得ません。

この少し乱暴な質問に対する高市総理の答弁は、「国民の皆様命と平和な暮らしを守るこ

とは自衛隊員の使命であり、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託に応えるという宣誓を行っています。つまり、国民の皆様のリスクを下げるため、自衛隊員は自らリスクを負います。あらゆる手段でこれらのリスクの低減を図っていくのが政治の責任であり、それこそが私の闘いです。これまで進めてきた防衛力の抜本的強化は、我が国の抑止力を高め、相手に攻撃を思いとどまらせ、事態発生そのものの可能性を低下させることにつながります。大切な子どもさん、そして国民の皆様の命と平和な暮らしを守り抜くため、防衛力の抜本的強化をこれまで以上のスピード感で進めてまいります。」と、極めてまともで力強いものでした。

改めて、憲法改正により、自衛隊・自衛官の存在そのものに疑問の余地がない、解釈論にさらされない、明確な記述のある条文を期待したいと思います。そして、私自身は、34年余りの現役時代の心の拠り所となり、半ば身に染みっている服務の「宣誓」を復唱し、その意味合いを噛みしめています。

『私は、我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し、日本国憲法及び法令を遵守し、一致団結、厳正な規律を保持し、常に徳操を養い、人格を尊重し、心身を鍛え、技能を磨き、政治的活動に関与せず、強い責任感をもつて専心職務の遂行に当たり、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえることを誓います。』

自衛官の宣誓は、公務員、警察官や消防士が行う宣誓と明確な違いがあります。それは、命を賭して国を守る覚悟を明確にしている点です。警察官や消防士等は、主として憲法遵守と公正な職務遂行を誓っていますが自衛官は危険を顧みず身を賭しての任務遂行とその責務が強調されています。

令和8年2月14日、横浜地区の入隊・入校予定者の激励会が神奈川県共済みらいホールで開催され、その後、上大岡募集案内所管内の予定者に対する激励昼食が催されました。昼食会では、主催者や来賓の方々からご家族を含む入校・入隊予定への激励のお言葉がありました。その中には、「月に

一度は子供である予定者からご両親に元氣な連絡を」、あるいは、「親御さんからはご子息への激励の連絡を」とお願いをするOBもいましたが、それはOB自身が当時を振り返って、愛情多きご両親に対する強い思いと入校・入隊予定者とそのご家族への思いが重なり合うものでした。私は崇高な使命を職業として選択して頂いたことへの尊敬と感謝を申し述べ、さらに自衛隊は学校であるといわれていることを例として、自衛官としてだけではなく社会人としても立派に育つことへの期待を述べさせていただきましたが、今から考えると、OBでもある私としては、「服務の宣誓」に基づく崇高な使命を強調すべきであったと思います。『いざという時には国民の皆様とのリスクを下げるため、自衛隊員は自らリスクを負う』のだと。だからこそ、「そこに皆さんの入校・入隊には国民の尊敬の念が向けられる」のだと。

昭和49年4月5日に入校式を終えた私は、年離れた両親をバス停まで見送りました。その時、私の目から止めどもなく涙が溢れ出たことが昨日のことのように思い出されます。

今年3月6日、映画『宣誓』が公開されました。この映画は、東日本大震災を舞台に、陸上自衛隊の災害派遣を描いています。津波で妻と幼い娘を失った自衛官と避難所で出会った同じように家族を失った少年の「喪失」と「再生」の物語です。映画は、被災地の日常と現実の温度をリアルに映し出し、喪失を越えて人が再び生きようとする瞬間を丁寧に描き出したヒューマンドラマとなっていました。

監督である柿崎ゆうじさんは、この映画のタイトルである『宣誓』について、月刊正論4月号で「災害派遣をテーマにした映画を撮っておいで何だ、と思われるかもしれませんが、私はやはり自衛隊の任務とは国防だと思っています。」と自衛隊のそもそもの存在意義について触れられています（以下、「」内の内容は、この正論から抜粋）。そして、「全自衛官が宣誓する『事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め』とは、究極的には国家や人のために、自らの命を差し出す、ということです。自衛隊は日本国民と国土を守る、文字通り最後の砦なんです。言葉には出さないけれど、常にあの重い「宣誓」を背負って、活動しているんです。それは

なかなかできるものではありません。本来、軍人・武人とは古今東西そうした存在でした。だからこそ、人々から尊敬され、国家からも顕彰されるわけです。その意味で、人口に膾炙する「自衛隊Ⅱ災害派遣」というイメージには違和感があるんです。」と話されています。映画は災害派遣がテーマにはなっていますが、これから起きることが予想される南海トラフの地震や台湾有事を考えれば、自衛隊に単に「期待している」という言葉だけではなく、そこに命を賭して日本国民を守る自衛隊・自衛官を尊敬し、感謝し、自衛官の尊い任務を称えて支えるとの思いが感じられました。そして、監督は、ウクライナ戦争の現実における「命」や「死」についても、「平和を求めるとは何なんだ」と強調し、「日本もそろそろ綺麗事ではなく、法制面も含め、平和のために何を整備するか、を考えていかなければならないと思います。」と述べられています。この映画を既に鑑賞された方もいらっしやるのかもしれませんが、『宣誓』のタイトルに醸し出される崇高な使命に身体全体から溢れ出す涙なくしては観られません。

防大時代に伺った先生からのお

話し、「国の防衛は、自衛官だけがやることではない」についてはその通りだと思います。ただ、そこに何かを求める場合においても、そこには、自衛官が行う「宣誓」は求められないでしょう。そのことを考えれば、「宣誓」のもので崇高な使命に向き合う自衛隊・自衛官に対する尊敬の念が国民には求められてしかるべきだと思います。一方で、尊敬の念を持つていただけるように、自衛官自身は日々の真摯な努力を怠ってはいけません。そこに決して奢りがあつてはなりません。「死」に向き合い「命」の大切さを自覚しなければなりません。そして、高市政権には、外交努力による平和の維持とともに防衛力の強化、何よりも先ずは自衛隊・自衛官に対する確固たる地位と尊敬が形となつて現れるように闘つていただきたいと思います。

さて、隊友会横浜南支部として
は何ができるのか。自問自答が続
きますが、今一度、「宣誓」にあ
る言葉を噛みしめつつ、OBとし
て、肩肘張らず胸を張り、誇りと
自信を持って謙虚に、地道に、国
民と自衛隊との架け橋としての役
割を追い求めていくことが大切な
のだと銘肝する次第です。

令和8年度 横浜南支部
総会・講演会について

(二)案内

令和8年度横浜南支部総会・講演会を次の通り開催致しますのでご案内を申し上げます。皆様のご出席をよろしくお願い致します。

なお、出欠につきましては、同封致しました返信用はがきに必要事項をご記入の上、4月17日（金）必着でご回答ください。重ねてよろしくお願い申し上げます。

【総会】

①日時

令和8年4月25日（土）

13時00分～14時30分

②場所（会場）

ワイリング横浜

12階 研修室126

京浜急行上大岡駅徒歩3分

③ 総会内容（案）につきまして

次ページをご覧ください。

【国民保護勉強会（講演会）】

①日時

令和8年4月25日（土）

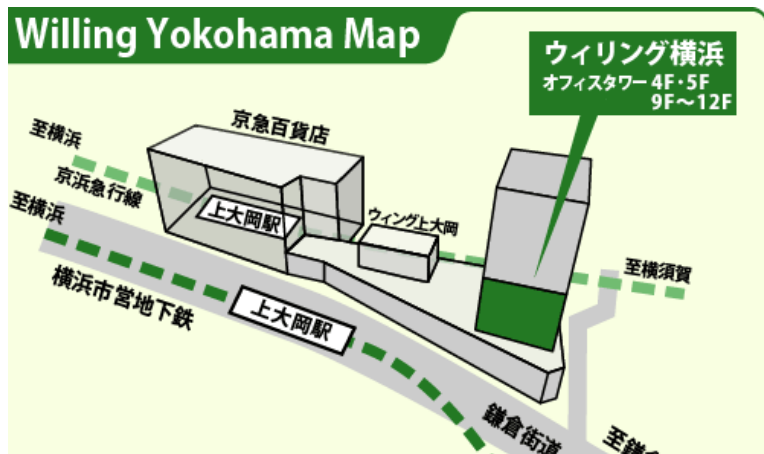
15時00分～16時45分

②場所（会場）

総会会場と同じになります。

③講演会につきましては、8ページの記事をお読みください。

なお、総会・ご欠席の会員皆様には、5月の横浜南支部会報等により、総会の内容、特に、令和8年度の支部活動計画につきましてお知らせをさせていただきます。



1. 令和8年度の総会審議内容：方針と重視事項事業、活動内容の取捨選択（効率・縮小化）（案）
- （1）令和8年度の隊友会本部及び県本部（6月に県総会開催）における活動方針等の着目点は3点です。①令和12年度の隊友会創立70周年を見据えた会勢増勢への検討着手、②隊員家族支援に係る施策への協力、③地域学校協働活動との連携です。これらを踏まえて、支部の方針と重視事項・具体的事業等を決定致しますが、着目点についての県本部からの具体的な事業内容の提示や指示は難しいものと考えています。このため、令和8年度は支部における当面の課題への対応を重視した活動方針の決定等が重要になると考えています。

令和7年度との対比による「令和8年度活動方針と重視事項（案）」

	令和7年度	令和8年度（案）
方針	支部は、県本部の方針・主要着眼等に基づき、具体的な事業の計画・実施（活動）により、隊友会が目指す地域住民と自衛隊との架け橋としての役割遂行と防衛基盤構築への貢献に努める。あわせて、支部会勢の維持・拡大に努める。 このため、特に、隊員募集活動への具体的支援、防災ボランティア活動における隊員家族支援の具体化、国民保護のための基礎的学びを重視した活動、支部会員が参加しやすい事業計画による支部会員相互の親睦を重視する。	支部は、①地域住民と自衛隊との架け橋として相互の理解を深めて防衛意識の普及高揚に努めるとともに②各種活動の推進による防衛基盤構築への貢献の役割を果たすように努める。 この際、直面する課題を踏まえ、実行する具体的活動の取捨選択と業務遂行の分担化を図る。
重視事項	（1）自衛隊の諸活動を支援するとともに地域住民の防衛意識の高揚に努める。 （2）会勢の維持・拡大に努めて支部の活性化を図ると共に会員相互の親睦を図る。 （3）募集活動の具体的支援を検討し実行する。 （4）防災ボランティア、特に、新中央協定（令和7年3月14日）に基づき災害発生時等における隊員家族支援の態勢を構築して支援要領の具体化を図る。 （5）国民保護に係わる学び等を通じ地域社会に貢献できる支部力をアップする。 （6）慰霊顕彰活動の推進を図る。 （7）神奈川県内の自衛隊及び関係諸団体との相互理解を深める。 （8）予備自衛官会員の募集を図る。	（1）必ず行う活動 ア 殉職自衛隊隊員の追悼 イ 新聞「隊友」の隔月発送 ウ 横浜南支部機関紙 （7月、11月、3月）の発刊 エ 横浜南支部講演会の開催 （基本的に年1回とする） オ 神奈川自衛隊音楽まつりへの協賛・支援協力業務の実施 カ 大規模災害時等の被災情報通信における役割を果たせるように努力 （2）望ましい活動 ア 自衛隊の諸活動を激励・支援するとともに地域住民の防衛意識の高揚に努める。 イ 新中央協定（令和7年3月14日）に基づく隊員家族支援要領の具体化検討を支援する。 ウ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について、地域学校協働活動との連携を含めた具体的な活動の枠組みや実施すべき活動等の検討に協力する。 エ 会勢の維持・拡大に努めて支部の活性化を図ると共に会員相互の親睦を図る。

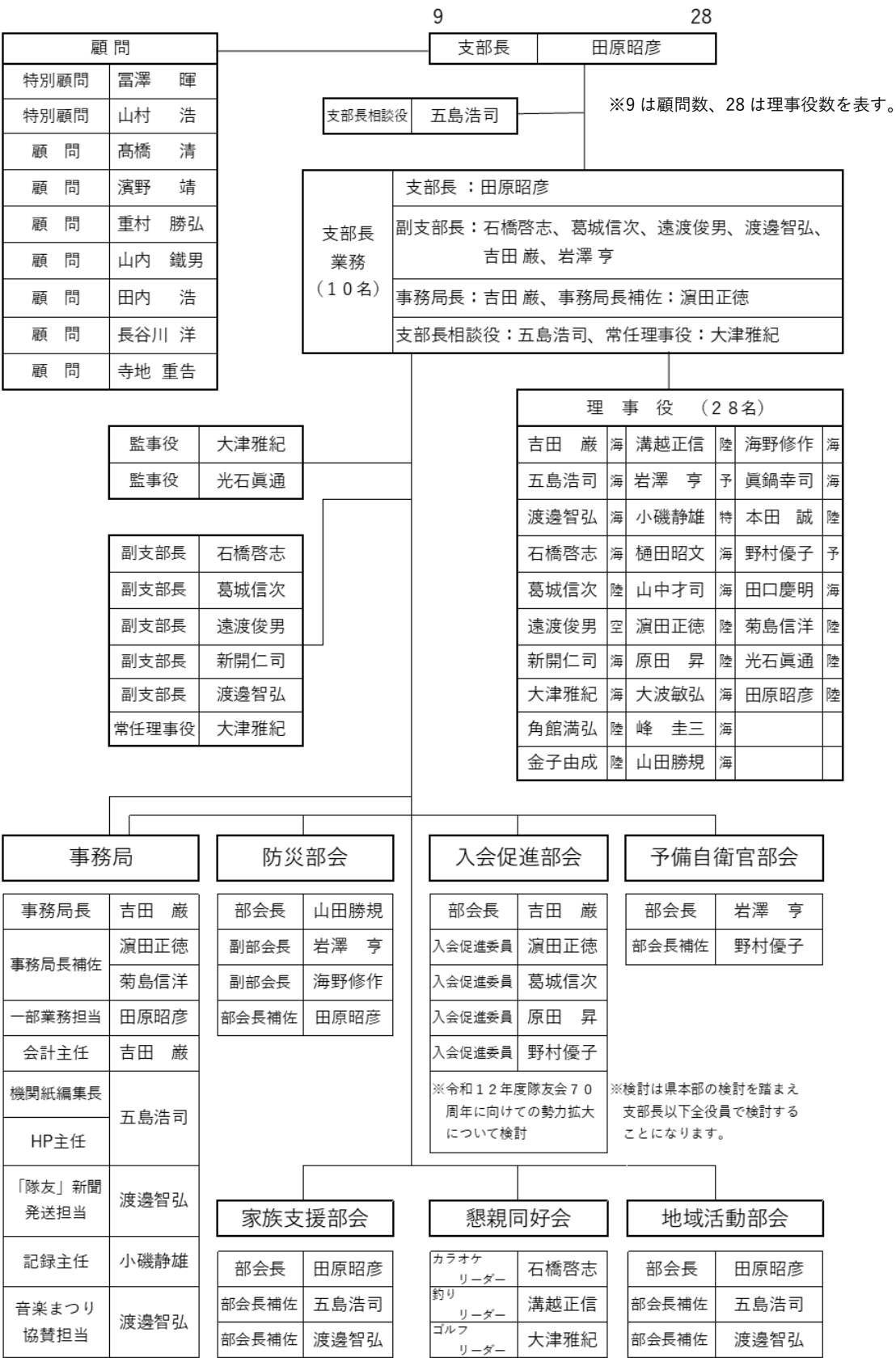
(2) 事業・活動内容の取捨選択（効率・縮小化）（案）

支部の当面の顕著な課題は、会員の高齢化、新規会員の減少、役員へのなり手不足です。これらを踏まえれば、これまでの活動の効率化が重要な対策になると考えていますので、以下のような事業・活動内容の取捨選択による効率・縮小化を図って参りたいと考えています。

事業・活動内容の取捨選択（効率・縮小化）

1. 最も重視する具体的活動が二つあります。
 - ①「隊友」新聞は隔月で確実に発送致します。これが最も重視する具体的活動の内の一つになります。
 - ②「隊友よこはま南」特集号を令和8年7月に、第55号を同年11月に、第56号を令和9年3月に確実に発刊致します。これが最も重視する活動の二つ目になります。
2. 神奈川自衛隊音楽まつりへの協賛については、令和7年度並みを目指します。また、音楽まつり支援協力業務の実施については、例年通り可能な範囲で務めて多くの要員をもって支援を致します。
3. 大規模災害時等の被災情報通信における役割を、現状の要員をもって、与えられたその役割が積極的に果たせるように努力致します。
4. 国民保護勉強会・講演会
支部総会時に1回のみの実施とし、他には実施しないことと致します。
5. 部隊研修等
県本部計画及び他支部計画の研修等を活用し、支部としては計画しないことと致します。
6. 同好会活動
支部活動としては休止を致します。なお、会員同士での計画は随時実施して頂き、実施の制約等は致しません。
7. 懇親会
 - (1) 年1回を目標として全会員を対象とした懇親会を計画致します。
 - (2) 新入会員歓迎会を初めて計画致します。基本は、年1回としたいと思います。
 - (3) 同好会活動等を含む会員同士の懇親は、随時、その時々幹事が計画・実施致します。なお、この懇親会は支部行事とはしないことと致します。
8. 資格取得の助成や支援事業の枠組みは維持して計画・実施致しますが、都度のお知らせ等は実施しないことと致します。
9. 川柳をはじめとする会員への活動活性化のためのアプローチ等は実施しないことと致します。
10. 各種情報は機会ある毎に発信しますが、「横浜南支部会報」は必要以外は文書による配付はしないことと致します。なお、メール、県本部HP等の活用施策を推進致します。

令和8年度 横浜南支部組織図（案）



凡例：●は支部主要活動、TBDは未決定を表す。

月日（曜日）		活動・業務予定等
4月	6日（月）	海上自衛隊横須賀教育隊入隊式（場所：武山 横須賀教育隊）
	9日（木）	海上自衛隊横須賀教育隊 第1期幹部候補海曹課程入隊式 （場所：武山 横須賀教育隊）
	11日（土）	陸上自衛隊第31普通科連隊創隊65周年記念行事（場所：横須賀市内）
	25日（土）	●令和8年度隊友会横浜南支部総会（場所：上大岡ウィリング横浜） ●国民保護勉強会・講演会（支部総会後開催）（場所：上大岡ウィリング横浜）
	TBD	予備自衛官一日間訓練 担当（場所：神奈川地本試験室）
5月	9日（土）	1／四半期県隊友会理事役会 在り方検討（場所：神奈川地本試験室）
	20日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局）
	TBD	中央輸送隊創隊8周年記念及び横浜駐屯地創立70周年記念行事 （場所：横浜駐屯地）
6月	14日（日）	令和8年度神奈川県隊友会定期総会（場所：かながわ労働プラザ）
		神奈川県隊友会防衛講演会（場所：かながわ労働プラザ）
		令和8年度3団体合同懇親会（場所：かながわ労働プラザ）
7月	4日（土）	第1回安全防災部会
	TBD	横浜駐屯地納涼祭（場所：横浜駐屯地）
	TBD	予備自衛官一日間訓練 担当（場所：神奈川地本試験室）
	22日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局） ●機関紙「隊友よこはま南」特集号発刊
8月	TBD	海上自衛隊横須賀教育隊終業式（場所：武山 横須賀教育隊）
9月	5日（土）	2／四半期県隊友会理事役会 在り方検討会（場所：神奈川地本試験室）
	16日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局）
	TBD	被災情報収集訓練（自治体・部隊等へのメール送信）
10月	TBD	海上自衛隊横須賀教育隊入隊式・始講式（場所：武山 横須賀教育隊）
	TBD	殉国六十烈士慰霊祭（場所：光明寺）
	TBD	予備自衛官一日間訓練 担当（場所：神奈川地本試験室）
	TBD	令和8年度自衛隊記念日祝賀会（場所：横須賀地方総監部）
11月	18日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局） ●機関紙「隊友よこはま南」第55号発刊
	TBD	令和8年度神奈川県自衛隊殉職隊員追悼式（場所：武山駐屯地）
12月	TBD	神奈川県本上大岡募集案内所協力諸団体合同忘年会（場所：上大岡）
	12日（土）	3／四半期県隊友会理事役会 在り方検討会（場所：神奈川地本試験室）
1月	10日（日）	令和9年防衛諸団体合同賀詞交歓会 出席（場所：かながわ労働プラザ）
	20日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局）
	30日（日）	防災図上訓練（場所：神奈川地本試験室）
2月	13日（土）	4／四半期県隊友会理事役会 在り方検討会（場所：神奈川地本試験室） 在り方検討（場所：神奈川地本試験室）
	TBD	海上自衛隊横須賀教育隊修業式（場所：武山 横須賀教育隊）
	TBD	予備自衛官一日間訓練 担当（場所：神奈川地本試験室）
	TBD	横浜地区入隊・入校予定者激励会（場所：県民共済みらいホール）
	27日（土）	第2回安全防災部会（場所：神奈川地本試験室）
3月	7日（日）	第48回神奈川県自衛隊 音楽まつり2026 出席・作業
	TBD	海上自衛隊「春の集い」（場所：横須賀地方総監部）
	17日（水）	●「隊友」新聞及び横浜南支部会報等発送作業（場所：県本部事務局） ●機関紙「隊友よこはま南」第56号発刊

令和8年度

横浜南支部国民保護勉強会

講演会開催（ご案内）

浜南支部の令和8年度の国民保護勉強会は、令和8年4月25日（土）に開催されます。令和8年度支部総会終了後に計画をしております。

講演会は令和5年12月に第1回を開催して以来今回で通算6回目になります。

本講演会は横浜南支部主催の国民保護勉強会における一環で、勉強会は、国民保護法等に関わる基本的なことを今一度学び直し、その勉強等を通じて地域社会に貢献できる国民保護についての知識力をアップすることを目的とすると共に地域で活動する隊友会に何かを期待されるような状況が生じた時には、その知識力が正しい活動等に結びつくことができることを目標として令和5年度から実施しているものです。

今回は、第19代潜水艦隊司令官 元海将 矢野一樹様を講師にお招きしての講演会になります。演題は、『極東の安全保障環境における潜水艦の重要性と次世代動力潜水艦』です。

最近の国際情勢、特にアメリカとイスラエルのイラン攻撃には驚いています。のご案内を書いています。3月9日になります。

ご案内が皆様に届くのは隊友紙・機関紙発送作業の3月25日以降になりますので情勢は大きく変化しているかもしれませんが、力による現状変更を企図するのはロシアだけでなく、日本の同盟国アメリカも同じなのかと思うと、益々中国の台湾有事が現実を帯びてきているように思わざるを得ません。そして、中国だけでなく、核を保有する強み、北朝鮮の存在がより日本の安全保障施策を難しくしていると感じています。

アメリカのイラン攻撃では、3月4日、アメリカ海軍の潜水艦が魚雷によりイランのフリゲート艦を撃墜しました。ヘグセス国防長官は、「第二次世界大戦以来、敵艦を魚雷で沈めたのは初めてだ」と主張しました。魚雷を使って艦船を沈めた例は、イギリスやパキスタンの例もあるようですが、それよりも、やはり潜水艦も展開していたのかと思いました。

この度の講演会の講師である矢野様は、潜水艦の第一人者です。この米原潜によるイランフリゲート

艦撃沈についてもミニ講演を準備していただけるとお伺いしています。この撃沈を含め、日本が保有する潜水艦等についても興味のあるところ。当日は、皆様の疑問・懸念にも大いに答えて頂けるのではないかと考えております。

今回も、県隊友会をはじめとして横須賀水交会、県郷友会、県偕行会、県自衛隊家族会のご後援を頂いての開催となります。

会員皆様、どうぞお知り合いの方もお誘いの上、ご出席をいただければと思っております。

① 日時

令和8年4月25日（土）

14時30分開場

15時00分開講

16時45分閉講

② 場所

ウイニング横浜

京浜急行上大岡駅徒歩3分

③ 会場

12階 研修室126

④ 受付

研修室126入口付近

⑤ 参加費

無料

⑥ 申込み

4月17日（金）必着で、総会等のご案内箇所でも述べました同封のはがきによりご回答ください。場合によっては、メール又は電話による申込みでも構いません。

申込み内容に含んで頂きたい内容は、参加者氏名・住所・連絡先（日中繋がる電話番号）です。会員以外の方をお誘いの場合には、その方の氏名・住所、可能ならば、団体名等もお願い致します。

なお、講演会終了後、有志（希望者）による講師を囲む懇親会を計画したいと思しますので、ご都合がよろしければご参加ください。ご希望の方は田原までお問い合わせください。



海上自衛隊オフィシャルサイトより

4月雜感

支部理事役 菊島 信洋

もうすぐ年度が変わる4月になります。4月は年度の初めで入学式や入社式なども行われ、気持ちがりセットされる季節です。気候も温かく快適になるため、活動的になる方も多いと思います。二十四節気では4月上旬に「清明」が巡ってきますが、清明とは清浄明潔の略語で、万物が清らかで生き生きとしている様子を表しています。万物が生き生きするのに欠かせないのが太陽の光です。穏やかな日差しが降り注ぐ太陽に感謝する気持ちは、太陽神である天照大御神を戴く信仰に繋がります。文学者のラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は松江で暮らしていたある日の朝方、日の出前から大勢の人が川べりに集まって談笑しているところに遭遇し、太陽が昇ったとたんにみんな太陽に向かって「きょうも一日お願いします」と言いながら手を打っているのを見て「なんて素晴らしい民族なんだ。」と感動して帰化する決意をしたそうです。太陽に感謝する気持ちを通じて自分の内面にも光を

当て、美しく生きようという意欲を振起している行動の現れです。「おてんとう様は見ています。」ということですね。ちなみに年度が4月から始まるのは日本のほかにはイギリス、インド、カナダくらいで、比較的多いのは1月、他にもアメリカは10月ですし、7月を年度初めとしている国も少なくありません。かくいう我が国も明治初期は1月だったり7月だったり紆余曲折して今に至っています。

清明の穏やかな日差しに感謝するなど書く、3、4月は気持ちよく過ごせる季節だと思われるかもしれませんが、実はそうでもありません。3、4月の気象環境は意外と不安定であり、最も顕著な現象は毎日の激しい寒暖の差です。前日との気温差が7℃以上あると気温差疲労が起きると言われていますが、3、4月はそれが数日おきに繰り返される（いわゆる三寒四温）ことが多く、寒暖差に適応するため自律神経が過剰に反応し、高齢者でなくとも体に負担となります。他にも、高気圧と低気圧が交互に通過する時期であることから、気圧の変化が頻繁に起きます。加えて日照時間が伸びる

ため朝早く目が覚めてしまったり夜寝付きにくくなったりします。こうした不安定な気候により交感神経と副交感神経のバランスが崩れて自律神経が乱れやすくなる季節でもあります。これを予防するにあたって大事なことは、月並みですが食事と運動と睡眠に気をつけることです。とは言え睡眠は長年の習慣や一日の生活サイクルの中でタイミングが決まるので、早寝早起きとか8時間睡眠とか言われてもその通りに改善するのは簡単ではありません。それに比べると食事と運動はちよつとした知識と心がけで対処可能です。人の体は誰でも自分の食べたもので造られています。新陳代謝で言えば、内臓は早い臓器だと数日で細胞が入れ替わり、肌は1、3ヶ月程度、骨は2、3年で全て新しくなります。すなわち今の自分の姿は大半が1か月、1年前に食べたものでできている、と言えるでしょう。となると、バランスの良い栄養素を考慮した食事に気を付ければ体質は改善できます。人間は他の動物と異なり、高齢になると食欲が落ちるという特性があり、必要な栄養素が全般に不足して臓器などが弱くなることが老化の原因

ます。遅刻しても平気で、電車の遅延や交通渋滞は自分のせいじゃないので仕方がないと言い、日本人のように遅刻したことを反省することはありません。みんなが仕事を始めているところに遅れて出社すると、「おー、電車が大変だったぜー。」とか言つて、机の前座ると仕事を始めるかと思つたら、平気でシリアルに牛乳を入れて食べ始めます。他には、仕事の進め方も期限を決めて逆算的にスケジュールを組むというやり方が苦手で、進捗次第でどんどん完了日が先延ばしされていきます。緊張感がなくおほかで、「人生そんなもんだよ。」と達観している雰囲気です。彼ら外国人は自分だけでなく他人が予定を守らないことにも寛大であり、そもそも様々なことが起きて予定が狂うのは日常茶飯事で、約束した時間はあくまで目安に過ぎないと捉えているようです。他にも目をむくような行いを平気でします。例えば、直属の上司に担当業務の指導を受けて認可がもらえないと、その上の上司（時には社長）に勝手に掛け合いに行つてしまい、事情を都合のいいように説明して認めてもらつて笑顔で帰ってきます。それを

聞いた直属の上司は呆れますが、直すように言つても聞かないので、諦めています。同僚である私たち日本人から見ると特別待遇されているかのように見えます。命ぜられた仕事はどこまでどのように進んでいるかを共有することもなく、トラブルがあるとしばらく黙つて自分だけで処理しようとし、どうにもならなくなつてから上司に相談に行き、結局は上司がトラブルを引き受けて肩代わりすることが殆どです。また、外国人はプライベートがとても重要であり、私的で大事な用事（と本人が思ったもの）ができれば仕事に穴が開いても平気で予定を入れて、同僚に肩代わりしてもらつても平然としています。ただし、逆の立場だといふ顔はしません。中には夏にバカンス気分で長期帰国し、20日間の有給休暇を使い切つてしまったあと、秋に親が体調不良になつたので帰国したいから何とかしてくれ、と願ひ出てきたこともありま。当然ここは無給休暇になるのですが、彼らからすれば親が体調不良になつたのは故意ではないので、有給のままで「何とかしてくれ」という虫のいいお願ひです。日本人なら不測事態に備

えて有給休暇を1週間くらいは残しておきます。とにかく日本人と外国人との価値観や文化の違いには日々驚かされストレスすら感じさせられます。上司から見ても同僚から見ても外国人社員は扱いに苦勞する存在となっているわけですが、外国からのお客様対応などで彼らが必要な場面もあるので、日本人と外国人が混在する職場環境は変えようがありません。彼らは日本で働く外国人の中でも特に質が低いのかもしませんが、同等の素養や経験を持つている代わりの人を見つけないのは大変です。外国人が日本人のような人格に変わつてくれればいいのですが、それを期待するのも無理がありま。そこで私たち日本人社員は、彼らのやり方や考え方を理解してみようか、と話しました。幸い日本人には祖先から培つてきた「和を貴ぶ伝統精神」が受け継がれており、高ぶる気持ちを深呼吸して落ち着かせ、他人との無用な争いを避けることが得意な民族です。怒りを抑えて彼らのやり方がある程度許容し、力を合わせて仕事を進めていこうと覚悟を決めました。もちろん彼らのやり方に一方的に迎合していたのでは悪い方向

に行くだけですし日本に永住しようとしている彼らのためにもなりません。そこで、こちらも日本流のやり方の手本を見せながら主体性をもつて彼らと接し、お互いを尊重しあうように心がけています。この体験を通じて得たものがあります。私は今まで時間を守るのが当たり前と考え、時間にルーズな人は劣っていると考えがちでしたが、彼ら外国人社員がこぞ時間を守るのを見て「時間を守る」ということに関心が湧き、調べてみるとむしろ世界スタンダードは時間を守らない方に寛容であることを知りました。むしろ日本人が特異な民族だと分かりました。今回そこに気づいたことで、彼らに対し批判だけでなく「許容する」という新たな発想が生まれ、対応行動が広がった感じがします。そして、日本人の良さやアイデンティティに改めて気づくことができました。今回の気づきは人生の大きな糧となり、悪い奴だと思つていた彼らが私に気づきを贈呈してくれた良い奴、と考えると感謝すら感じられるようになります。

さて今から500年前の1526年4月には第105代の後奈良

天皇が即位しました。後奈良天皇は戦国時代の真つただ中、飢えや疫病、災害に苦しむ国民に深く寄り添った天皇として有名です。今上天皇は、皇太子であられた2017年の会見で、象徴天皇の模範とする8人の天皇の一人に挙げられました。後奈良天皇の人柄は実に清廉潔白であり、自らは即位式も大嘗祭もできない程困窮してしながら諸大名からの献金を一切受け取らず、即位から10年を経てようやく即位式は行えたものの、31年間の在位期間中とうとう大嘗祭は挙行できませんでした。当時は天皇家はじめ皇室や公家はどこも書物の出版や和歌の指南などでどうにか生計をつないでいる状態でした。後奈良天皇は学問にも造詣が深く、和歌集をはじめ文学書、研究書、なぞなぞ集など多くの書物を出版するとともに、和歌や墨書を書いては御所の門前に吊るし、心ある町民に買ってもらって生活の足しにしていました。天皇は勅許により武將に官位・官職を与える役目がありましたが、その時期になると御所修繕のためとして朝廷に献金が行われることがよくありました。当時は応仁の乱以来の戦乱で京全体が荒れ果て、

御所の門は全て傷だらけ、壁はあちこちが崩れてどこからでも入ることができ、実際に強盗なども平気で御所敷地内に入り込んでいたそうです。後奈良天皇は叙任・補職の対象者が献金していたことを知ると、周囲の意見を入れず直ちに勅許を取り消し献金は突き返したそうです。また、なにより民の平穩を第一に願っており、災害時などは般若心経の写経を災害地の神社などに多数奉納して疾病息災を心から祈りました。その際、「災害で民が苦しんでいるのは、自分に徳が足りないからだ。本当に申し訳ない。」といった言葉を添えています。このような「貧しくても心は美しく」という500年前の生き方には見習うべきところもあります。私は皇族でもないしまだまだ煩惱だらけですが、これからの人生後半は今までの生き方を見直し、欲望、怒り、ねたみ、などを少しずつ捨てて穏やかに生きていきたいと思ひ始めています。口だけで終わらないよう、紙面で宣言してみました。数年後どうなっているか不安ですが、

年会費納入のお礼とお願い

「隊友よこはま南第53号」(前号)において、昨年11月11日現在で年会費を納入された方々にお礼申し上げましたが、その後、次の方々からも令和7年度の年会費を納入頂きました。(3月20日現在) ありがとうございます。なお、お振り込みが本紙と行き違いになってしまいましたら、何卒ご容赦ください。

1 特別会員

飯島隆史様、大村悠様、黒川勝様、清水一明様、伏見幸枝様、三浦信祐様、新井絹世様

2 年会員

- ◇西区…田島圭子様、勝俣敦祐様
- ◇中区…内野充康様、
- ◇南区…八巻俊幸様
- ◇港南区…桑原正明様、小島保仁様、高島徹様、長谷川晃生様
- ◇金沢区…遠渡俊男様、佐藤重幸様
- ◇保土ヶ谷区…村田正治様
- ◇戸塚区…森博之様

- ◇栄区…南道行様、森井佳伸様
- ◇長野市…長島裕史様

以上

会費は横浜南支部の具体的活動の支えとなっています。まだご納付のお済みでない方はお早めにご納付をお願いします。
振込用紙(払込取扱票)のない方は、ゆうちょ銀行00220-5-132098「神奈川県隊友会横浜南支部」に振込をお願いします。

神奈川県自衛隊音楽まつりに「ご寄付を賜った方々へのお礼」

3月15日、第47回神奈川県自衛隊音楽まつりが海老名市文化会館)において開催されました。「隊友よこはま南第53号」(前号)において昨年11月11日現在で協賛を賜りました方々にはお礼申し上げますが、その後、次の皆様からも協賛を賜りました。(3月20日現在) 心から厚く御礼を申し上げます。なお、ご寄付が本紙と行き違いになってしまいましたら、何卒ご容赦ください。

- ◇南区…葛城信次様
- 以上

支部機関紙運営等に
ご寄付を賜った方々へのお礼

「隊友よこはま南第53号」(前号)において昨年11月11日現在でご寄付を賜りました方々にはお礼申し上げますが、その後、次の皆様からもご寄付を賜りました。(3月20日現在) 支部活動活性化のために適切に運用させて頂きます。誠にありがとうございます。なお、ご寄付が本紙と行き違いになってしまいましたら、何卒ご容赦ください。

◇南区…葛城信次様

◇港南区…小島保仁様、竹田範弘様

◇金沢区…峰圭三様、山田勝規様

◇戸塚区…溝越正信様 以上

俳句・川柳コーナー

会員相互の親睦を図る手段の一つとして、俳句と川柳を募り、優秀作品を掲載してきましたが、応募者が少ないこともあり、本コーナーは今回をもって一度お休みさせて頂くことといたしました。これまでのご愛読に心から御礼と感謝を申し上げます。

★「仕事ゆえ」

望まぬことも

笑顔見せ」

最近は何のせいか、不満や苛立ちなどがつい、顔や態度に出そうになります。自衛隊の時はお互いを思いやり尊重しあえる雰囲気の中で仕事をしてきましたが、民間は様々な価値観をもつ社員が入り混じる中で職場の協同意識を高めることが大事だったり、お客様の様々な(一見理不尽な)要求に对应して満足してもらったりする必要があるので、いつも笑顔で過ごすよう肝に銘じていることを詠んでみました。

★「胸の内」

声に漏れるは

老いだろか」

通勤のバスでいまさら初歩英語を学習していますが、頭の中だけで「なんだっけなあ」「あつ、そうか」などつぶやいた言葉が、ふと口に出ていることに気づきました。自宅に帰ると同居する老母がテレビを見ながらしきりに語り掛けている姿を見かけ、いずれは自分もこうなっていくのかなあ、と自分の老いを感じ始めた気持ちで詠みました。

★「寒野宴」

数多の演習

ありがとう」

1月に空挺降下訓練始めの見学に行き、引き続き演習場内で小泉大臣を囲んでのバーベキュー大会にも参加しました。屋外は強風でかなり冷えましたが、台風接近中の大雨や零下30度の深い雪の中など、現役の時に何度も凍えながら演習してきたことを思い出すうち、寒さを感じなくなっていました。やっぱり訓練は裏切らないんだなあ、と思ったことを詠みました。

★「久々の」

芽にまだまだと

励まされ」

花を抜いて3、4年放置していたプランターから、突然花の芽が出てきました。おそらく、抜くときにこぼれた種が土中に残って生命力を維持しつつ、数年後に何らかの環境の変化で再び活動を始めたのだと思います。還暦を過ぎて少しペースダウンし始めていた私に対し、まだ老け込むのは早いぞと励まされた気がして詠んでみました。

(会員…菊島信洋様)



横浜地区入隊・入校予定者激励会 (2.14)

編集後記

編集防人

四半世紀以上にわたり横浜南支部の理事役として多大なる貢献をされた野口淳様(九一歳)が3月9日にご逝去されました。

大変明るく、穏やかな性格で我々役員にとって頼りがいのある兄貴分としてご指導して頂きました。各種イベントや隊友新聞の手配り作業などでお元気に活動されていた姿を思い出すと残念でなりません。今後は我々が野口さんのご遺志を引き継ぎ、しっかりとした隊友会活動に邁進していききたいと思えます。

野口さん、長い間、ほんとうにありがとうございました。

合掌